

## 第四十一回 卒業式 式辞

厳しい寒さのせいか、まだ固かった桜の蕾もようやく膨らみはじめ、満開の花を咲かせる日を早くも待ちわびる季節となった今日の佳き日、平成二十九年卒業式を行うにあたりまして、川西市教育委員会 ことども未来部 総務調整室長 中西 哲 様をはじめ、多数のご来賓のみなさま、地域のみなさま、並びに保護者のみなさまのご臨席を賜り、教職員を代表いたしましたしまして厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、六十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめで

とうございます。

私自身はみなさんとは二年間、共に学校生活を送りました。特にみなさんが6年生になったこの一年間、学校全体が落ち着いた環境の中で、充実した学習を進めることができたのも、6年生のみなさん一人一人が最高学年としての自覚を持ち、それぞれの場面で自分の個性を活かし、「自分たちの学校は自分たちでより良くしていくんだ」と協力して取り組んだ、自治の力の成果だと思えます。特にこの自治の力として印象的だったのは、児童朝会での委員会活動の発表でした。

6名の計画委員が中心となって、他の委員会の委員長と定期的に協議し、そこで朝会で取り上げる内

容をまとめて、各委員会では訴える内容とともにその方法についても話し合う。こうした準備を経て開催された朝会では、計画委員の司会の下、各委員会が様々なテーマについてそれぞれ工夫して発表しました。「ハートハッピー週間」や「読書週間」、「給食の食器返却」や掲示委員会・放送委員会の取り組みなど…、また、それらは呼びかけ形式だけではなく、クイズ形式や劇形式など、下級生が楽しみながらそれでいて心に残るような工夫がされた発表形式でした。

みなさんが今年度創り上げてきたこの自治の力、それは「自分たちの学校は自分たちでより良くしてくんだ」という気持ちと学年としての団結の賜物であり、清和台南小学校の新しい伝統です。皆さんが

創り上げたこの新しい伝統を、今、私の後ろに座っている5年生が、いかに引き継いで、より良い形で発展させていくのか、私は楽しみにしています。

そして、私がみなさんにこれからも大切にしてほしいという願いを込めてお話しすることも、この「自治の力」と深く関わることです。

それは、「じっくり考え、自分の意見を持つ」ということです。今、社会は大きな変革の時にあります。少子高齢化による人口減少や世界各国の不安定な政治状況など、これまででは想定できないようなさまざまな課題が表面化してきました。これは今まであたり前のように続けてきた仕組みが、残念ながら時代の流れに合わないものになってきているからだ

思います。

私が「しつかり考え、自分の意見を持つ」ということをみなさんにお話しするのは、新しい時代を創るみなさんに、その責任と可能性を自覚して、これから歩んでいってほしいと思うからです。先ほど述べたさまざまな課題に対し、「こうすれば絶対に良い」というような画期的な方法は、残念ながらすぐには見つからないと思います。つまり、どの方法どんな取り組みを進めても、それぞれに良いところ悪いところがあり、それを踏まえてどれを選ぶかを自分たちで考えていかなければならない、そんな時代になっているのです。

他人の出した考えや行動に対し、「ここがだめだ」

と批判することは簡単です。でも「それではどうしたらいいのか」という自分の考えがなければ、一步も前には進みません。具体的な意見を持つことによつて、迷い試行錯誤しながらも、新しい手立てを見つける可能性が生まれるのです。

そのためには、他人の意見にしっかり耳を傾けたり、本を読んで先人たちの考えを見直したり、逆に最も新しい知識を身につけたり、また、マスコミやソーシャル・ネットワークなど、溢れる情報の中から事実を見極めたり…、そういった「学ぶ」姿勢を持ち続ける必要があります。

また、「自分の意見を持つ」ということは、自分自身でしっかり責任を負うことと深く関わっています。

自分の意見を持つからこそ、自分にも責任がかかってくるのです。自分の意見を明らかにするからこそ、話し合いにも参加できるのです。民主主義の基本は、決定したことに対してみんなで責任を負うという覚悟があることだと思います。

もちろん、「じっくり考え、自分の意見を持つ」ことで、批判をされたり反対されたりすることがあるかもしれませんが。しかし、自分とは違った意見だからこそしっかりと耳を傾け、その違いを乗り越えて、相手と対話をし、より良い方法を探していく、それがみんなで責任を負うという覚悟につながるのです。責任を負う覚悟を持つ、その第一歩として「じっくり考え、自分の意見を持つ」ことは、大切なことだと私は思い

ます。

でも、だからこそ、私はみなさんの可能性を信じています。自分の意見を持ち、話し合いながら違いを乗り越え、「自分たちの学校は自分たちで良くしてくんだ」という思いで、みなさんが取り組んできた自治の力、その取り組みが大きな自信となつて、これからのみなさんの成長の糧となる、そう信じているからです。これからも「しっかり考え、自分の意見を持つ」で、一歩一歩じっくり歩んでいってほしいと思います。

さて、保護者ご家族のみなさま、お子様のご卒業おめでとうございます。

お子様がこうして立派に成長し、小学校を巣立つ

ていく今日の姿を見られて、喜びもひとしおのことと存じます。六年間の学校生活の中で、学校として至らない点も多々あったとは存じますが、子どもたちのサポーターとして本校の教育活動に今日までご理解とご支援を賜り、本当に感謝いたしております。今後とも清和台南小学校の教育活動に、変わらずご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、地域・関係機関のみなさまには、さまざまなか場面で本校児童ならびに教育活動に対し、変わらぬご支援をいただき、本当にありがとうございます。しました。子どもたちはここ清和台をふるさととして、次の時代を担っていく、私たちの宝です。これからも

地域の中で、温かく、そして時には厳しく見守っていただきませう、お願い申し上げます。

卒業生のみなさん。先程みなさん一人一人が語っていた自分の夢や目標を信じて、不安に負けず勇気を持って、しっかりとその一歩を踏み出してください。

その先には大きな可能性を持った、明るい未来が広がっています。これからの新しい出会いを大切に、また大きく成長した姿を見せて下さい。それが、みなさんと共に「学び合う」時間を過ごした、私たち教職員の誇りであり、喜びでもあります。

さあ、卒業生のみなさん、「飛び立とう、未来を信じて！」

これを持ちまして、式辞といたします。

平成三十年三月十六日

川西市立清和台南小学校

校長 石田 剛